

話 題

ま ち の

西洋ナシ研究に集う情熱家たち 西洋ナシ研究協議会

「需要にこたえられる西洋ナシ作りを目指して」をテーマに、全国果樹研究連合会などが主催した西洋ナシ研究協議会が、十月十一日本市で開催されました。この協議会には、県内をはじめ山形県、長野県などからおおぜいの栽培農家や農協などの関係者が参加。生産から流通までの現状と課題を熱心に研究しました。午前中の現地視察は、上大郷の佐久間勉さんの園地（水田転換畑での西洋ナシ栽培）と東萱場の小池正一さんの園地（西洋ナシわい化栽培）で行われました。参加した人たちの真剣に果実を見つめる目、熱心にメモを取る姿に、西洋ナシに傾ける情熱が伝わってきます。

午後からは白根市農協に会場を移し研究討議。各県からの意見発表の後、活発な討議が行われました。



わら縄作りに挑戦 茨曾根公民館が集いを開催

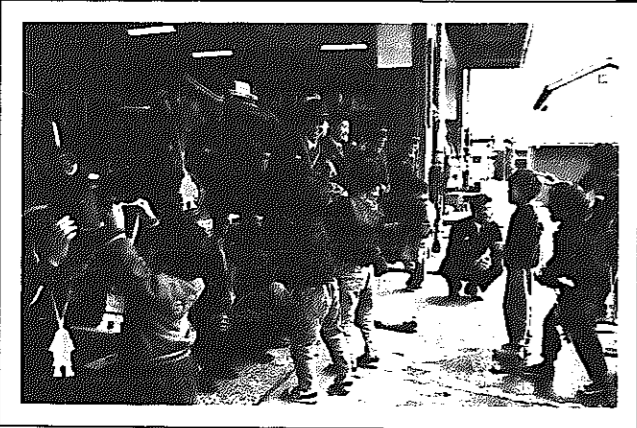
茨曾根小学校体育館で「子どもとお年寄りの集い」が十一月二日行われ、楽しいひとときを過ごしました。ふるさと学級と名付けられたこの日の行事では、お年寄りが先生で、生徒は五、六年生の児童。児童は牛馬を使って農作業をしていたころの話聞いた後、わらで縄跳び用の縄作り。また、関根熊市さんが話した、茨曾根に伝わる「ねこ丸」という刀の民話を興味深く聞いていました。縄作りでは、児童から「手がひりひりする。接ぐところが難しい」の声。でも、自作の縄で得意げに縄跳びをしていました。



消防士さんありがとう 諏訪木保育園

「消防士さん、いつも僕たちを守ってくれてありがとう」と諏訪木保育園の年長児二十四人が、十一月十四日白根地区消防署を訪れました。子どもたちからのプレゼントは、一生懸命に作った犬の消防士のペンダント。子どもたちからペンダントを首に掛けてもらった消防士さんたちは、日ごろの厳しい仕事を忘れてニコニコ顔。

お礼に消防車や救急車に乗せてもらった子どもたちは「ラッキー！」と大喜び。「どうして赤いランプが付いているの？」などと、消防士さんたちを質問責めにしていました。



健康管理とボケ防止に 老人クラブ作品展

十月二十三日から二十五日まで、老人福祉センターで第四回老人クラブ作品展が開かれました。この作品展は老人クラブ連合会が主催したもので、書画、盆栽、手芸など約三百点が大広間いっぱい展示され、いずれ劣らぬ力作ぞろいでした。

「この作品展のために、春から計画を立ててがんばってきました。健康管理とボケ防止にはいちばんですよ。みんなで集まって交流するのが楽しみですから」と話す斎藤りせさん。年々出品数も増え、もっとPRしておおぜいの人に見てもらいたかったという反省も出ていました。



絞り取り持つ友情 サークルふきのとう

白根絞りの新聞記事が縁で交流が始まった、サークルふきのとうと北蒲原郡安田町の小内一子さん。小内さんが自分で縫ったという愛用の白根絞りの浴衣を「役立てて」とプレゼントしたのがきっかけです。

ふきのとうの皆さんは十一月一日、二日に中央公民館で白根絞りの展示会を開き、学習の成果を披露。安田町から駆けつけた小内さんは「皆さんとは初めて会ったような気がしません。白根絞りは柔らかい味で、染めそのものを楽しむことができますので、小物に生かすといいですね」と絞り談義に花を咲かせていました。



白高文化祭に古本屋が登場 益金は市へ寄付

十月二十九日、白根高校の文化祭に「古本屋」が登場しました。この催しは、三年五組の生徒が益金を寄付する目的で行ったもの。先生や生徒が寄贈した本と生徒が高校周辺の家庭を訪問して寄贈してもらった本を合わせると、なんと一千六百冊。この日の益金二万六千二百五十五円は「社会福祉に役立てて」と、十月三十一日に市へ寄付しました。

クラス代表は「高校生活最後の思い出として取り組みました。ご協力に感謝します」と話し、担任の岡村増雄先生も「生きた体験ができたことと思います」と目を細めていました。



つきたてのモチはおいしい 戸石小で収穫祭

戸石小学校では、十月二十九日文化祭と合わせて収穫祭を行いました。収穫祭は、どろんこ学校田と名付けられた四アの田からとれたもち米を、児童がきねでつき、みんなで食べるもの。学校田は父兄の協力を得て四年前から全校児童で取り組まれ、今年の収量は二百十キ。

ついたモチは二百八十食分。文化祭に来た校区民や、同日行われた新校舎完成式に出席した来賓にもふるまわれました。新校舎で初の収穫祭とあって、児童の目は輝き、あんなにきな粉を付け「つきたてはおいしい」を連発しながら食べていました。

